



2025年2月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 2

子どもを守る、大人の役割を考える

横浜YMCAオルタナティブ事業 田沼 美穂

横浜YMCAでは、世界的ないじめ反対運動「ピンクシャツデー」に賛同し、いじめの問題を考える機会としています。今号では、発達に気になる子どもたちとともに過ごすオルタナティブ事業において特別支援士としてかわる田沼美穂スタッフから違いを受け入れ、共に生きるために大切なこと、またそのための大人の役割などについて考えていきたいと思います。

小学校高学年のAくんがプリントを整理しながら「今日、学校でたいへんなことをしちゃったんだよ」とつぶやきました。「どうしたの？話してほしいな」と声をかけると「あと(ひとことトーク)で話します。」と反応がありました。

YMCAの毎週のクラスには「ひとことトーク」という時間があります。低学年の子どもたちは、ひな形に沿って、学校であったことや休みの日に家族と取り組んだことなどを話します。子どもたちにとっては、あったことを思い出して話す、気持ちを言葉にする練習です。中学年になると「楽しかったことだけでなく、困ったことやうまくいかなかったことも話せる」といふ、YMCAはそういうこ

とをみんなで一緒に考える場所だからと伝えていきます。そして練習を重ねていくとAくんのようにネガティブな気持ちも話すことができるようになっていきます。思春期の苦しい時期を共感し合い、支え合って乗り越える。そのような時間を大切にしています。

この日のAくんの話はこうでした。「しつこく、イヤな言葉を言ってくる友だちがいて、最初は無視していたけど、あまりにしつこいから「やめて！」と言いつつ、それでもやめてくれなかったの、思わずその友だちの背中を強く叩いてしまった。その直後に「まずい！」と気づいて「ごめんね」と謝ったら「いいよ、大丈夫」と言ってくれた。暴力はいけなくて分かってるのに自分で自分を止められなくてやっちゃった」と話してくれました。隣で聞いていたBくんが「ぼくもそういうことあったよ」とAくんを声をかけました。「うん。やっちゃいけないって分かっているのに止められなかったんだ」と繰り返すAくん。心の底から反省している様子が伝わってきました。私たち大人は「暴力はいけない」「いじめはダメ」と伝えます。「いじめられて苦しいときには話してね」とも伝えていきます。でもこの時ふと思いました。暴力をふるつ



▲ピンクのビートパンを持っていじめ反対の思いを表すスイミングクラスの子どもたち (2024年2月横浜北YMCA)



いじめの側の子どもたちの気持ちや話を聞くことも大切なのでは？ということに。彼らこそ、助けを求めているのかもしれない。どんな気持ちなのか、どうしてそうなったのか聞いてくれる仲間や大人の存在が必要なのではないでしょうか。Aくんのおかげで、私はそのことに気づくことができました。誰かに話す、聞いてもらう。共感し、励まし合い、時には注意し合う。そういう仲間と場所をこれから大切にしていきたいと強く思った瞬間でした。

「その場を離れた方が良かったかも」先生に相談してみた方がいいと思う」と親身になって考えてくれる友だちに励まされて、Aくんも最後は落ち着きました。私は「勇気を出して話してくれてありがとう。みんなで考えることができたら良かったよ」とAくんにお礼を言いました。

横浜YMCAでは喜びも苦しみも、うまくいったことも、うまくいかなかったこともその気持ちを伝えて、それを受け止めてともに分かち合うことができるように取り組んでいます。私たち大人はその案内人としての役割があると思います。お互いが理解し合い、分かち合い、認め合えるような地域や社会を創りたいと思います。

いじめのない社会をめざしてピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」は、2007年にカナダで始まりました。ピンクのシャツを着て登校し、いじめられた少年のために先輩二人がピンクのシャツを着て登校しようと呼びかけ、賛同した多くの生徒がピンクのシャツや小物を身につけて登校し、いじめは自然となくなったそうです。以降、その出来事があった2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、いじめられている人と連帯する思いを表す日としています。横浜YMCAでは、2月のピンクシャツデーの日のみに取り組む一過性のものでなく毎月最終の水曜日に取り組んでいます。今年は2月26日(水)がピンクシャツデーとなります。多くの皆さまとともにいじめや差別のない社会を目指す機会とします。



ホドス

2月は「ピンクシャツデー」の月である。ピンクシャツデー運動は2007年2月、カナダ・ノバスコシア州の高校で、ある男子生徒がピン

ク色のシャツを着て登校し、いじめに遭ったことを知った上級生二人が、自らピンク色のシャツを着て「いじめストップ」運動を展開し、いじめを防止したという事実由来する。これを知った州知事は、生徒たちが行動を起こした2月最終水曜日を「ピンクシャツデー」と宣言し、以来世界中に賛同者が現れ、グローバルないじめ反対キャンペーンとなった▼横浜YMCAは2014年にピンクシャツデー運動を開始した。2018年には賛助会企業やNPO団体とともに「ピンクシャツデー2018 in 神奈川県」運動を立ち上げ、神奈川県、横浜市などの協力のもと協働活動の輪を広げ今日に至っている▼子どもたちのいじめは、わが国でも昔から存在していたが、近年はスマホやインターネット利用の浸透によって、はたから見えにくくなっていく上に、いじめを受けた子どもが自死に追い込まれる深刻なケースも起きている。自死などの衝撃的な事件が起きると、人びともその時はいじめ問題に関心をよせるものの、時が経つと風化してしまう傾向がある▼いじめを防止するためには、いじめが人権侵害行為であることを認識し、人格尊重の教育を粘り強く継続することが必要である。YMCAは設立の当初から、イエス・キリストの隣人愛の実践を使命として活動を続けてきた。いじめ防止問題におけるYMCAの役割は、極めて大きい。(茂)

YMCA NETWORK NEWS

富士山 Y.M.C.A.で いちばん星キャンプ

富士山Y.M.C.A.クローバル・エコ・ヴィレッジでは、12月26日から28日に、富士山の大自然の中で思いっきり遊ぼうと「いちばん星キャンプ」が行われた。キャンプでは、子どもたちそれぞれが手作りの望遠鏡を制作した。細かい作業は、互いに助け合いながら行われ、キャンプの仲間同士のチームワークも育まれた。自分たちの手作りの望遠鏡と大きな望遠鏡の操作練習を行い、見たいものにヒントを合わせるのが難しかったが、慣れてくると「富士山」を見ることができた。夜7時からスタウウオッチングでは、気温マイナス1度の中、オリオン座、冬の大三角、木星などを見ることができた。



富士山Y.M.C.A.では2月22日(土)から行われるファミリーキャンプ「ユニースポーツを楽しむ」の予約受付中。詳細はQRコードからご覧いただけます。

いじめのない世界をめざし ピンクシャツデーに取り組む

5 ジェンダー平等を実現しよう

日常から自分事としていじめ・差別・偏見について考える機会を持つ

10 人や国の不平等をなくそう



▲絵本を用いて、トゲトゲさん(嫌なこと・悲しいこと)、ふわふわさん(うれしいこと・優しいこと)を子どもたちと考える(大和YMCA保育園)

めめ、いじめ防止対策推進法の理解が広がり、いじめの認知や相談の拡充が進んでいる。また、いじめ防止対策そのような中、引き続き、いじめのない世界を目指し、いじめを「自分事」として向き合い、傍観者ではなくして「こうと横浜YMCAでは、2月にいじめをなくす世界的な運動としての「ピンクシャツデー」に賛同し全国のYMCAや地域とともに取り組んでいる。さらに、横浜YMCAでは、2021年から2月最終水曜日のピンクシャツデーの取り組みを一過性のものではなく、日常のこととしていじめや差別、偏見について自分事として捉え

全国の小、中学校で不登校の児童生徒数は34万6482人となり、過去最多を更新した(文部科学省)ことが2023年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(問題行動調査)で分かった。増加は11年連続で、前年度比4万7434件増で30万人を超えたのは調査開始から初めてとなった。

同省によると増加の要因は、生活リズムの乱れや学校活動の減少などコロナ禍の影響が続いていることや特別な配慮が必要な子への適切な支援不足が背景にあると考えられている。また、いじめ防止対策そのような中、引き続き、いじめのない世界を目指し、いじめを「自分事」として向き合い、傍観者ではなくして「こうと横浜YMCAでは、2月にいじめをなくす世界的な運動としての「ピンクシャツデー」に賛同し全国のYMCAや地域とともに取り組んでいる。さらに、横浜YMCAでは、2021年から2月最終水曜日のピンクシャツデーの取り組みを一過性のものではなく、日常のこととしていじめや差別、偏見について自分事として捉え

Topics

140years of HISTORY

教養文化講座盛んに vol.11

1964年10月東京オリンピックが終わり、1960年代の後半に入っていく。カラーテレビ、カー、クーラーの3Cが新三種の神器といわれ、経済発展は日本の自動車生産量を世界3位に達したといわれました。1966年から1967年にかけて横浜YMCAでは少年・青年・体育の各有志指導者の養成に力を入れると同時にプログラム活動としては教養文化的な講座を盛んに行いました。青年教養大学講座、人生設計講座、母親大学講座などを聞き、これらの講座プログラムは1968年の結婚講座、婦人文化講座、1969年の青年教養大学合唱講座、将棋講座、民法講座などを加え、続いていきました。

1968年には真鶴のリトリートハウスを整備して鉄筋コンクリート三階建てとし、本格的な研修施設となりました。1968年5月に起工して同年12月に完成し、献堂式を1969年1月15日に行いました。

同年に、1968年から従来国際友好奉仕活動として行っていた国際関係の事業を「国際事業委員会」として故杉本恭之助氏が委員長となり、事業方針を立てて組織的効率的に国際奉仕活動を展開するようになりました。

1969年にはプログラム対象年齢の低下が始まり、3歳児と母親、小学生のためのサッカー教室を開始しました。



YMCA真鶴リトリートハウスが開館(1969年)

ポジティブネットをひろげよう
~今月のよくなる一歩~

いじめのない 世界を目指そう
(Caring, 思いやり)

YMCAパヤオセンターに 自転車を送ろう! 募金受付中



▲自転車で通学するパヤオセンターの子どもたち

横浜YMCAでは、バンクY.M.C.A.と協働しタイ北部にある児童保護者シェルターY.M.C.A.パヤオセンターの運営を行っている。子ども自立・教育支援「プロテクト・ア・チャイルド」は、3万6千円の協力で一人の子どもの1年間の教育費となる。またセンターの子どもたちの大学進学のための「タンタワン奨学金」の支援も呼び掛けている。

2024年8月に行われた「横浜YMCAグローバル・スタディーツアー」には、ユース10人を含む13人がバンクY.M.C.A.パヤオセンターを訪問した。ホームステイやフィールドワー

ようと、毎月最終の水曜日にピンクのシャツや小物を身につけて「ピンクシャツデー」運動に取り組んでいる。その中でも保育事業では、他者への思いやりを持つことを伝えようと絵本の読み聞かせを通して他者を大切にすることを育む取り組みを行っている。アフタースクール事業では、どのような言葉が相手の心を傷つけたりするのかなどについて考える機会を持っている。

一方、神奈川県や横浜市、地域の企業や団体などで主催する「ピンクシャツデー2025 in 神奈川」では2月26日(水)午後1時から6時まで新都市プラザ(横浜駅東口地下2階)にてパネル展示などのイベントを行う。

笑顔には心と体に良い影響があることが、科学的にも証明されています。笑うことでストレスが軽減され、幸福ホルモンが分泌されるため、心身の健康に役立つそうです。実際、笑顔を作ることで、脳が「幸せ」を感じ、免疫力を高めることも知られています。また、笑顔を交わすことで、周囲の人びととのコミュニケーションが円滑になり、心の健康にも良い影響を与えます。社会的つながりが強化されると、孤独感や不安感の軽減にもつながり、精神的な健康が保たれます。

私たちの健康維持には、規則正しい食事や適度な運動、質の高い睡眠が大切ですが、笑顔を意識的に増やすことも、心と体のリフレッシュに役立ちます。「ニコニコの日」をきっかけに、笑顔の力を再確認し、心も体も健康的な毎日を送りたいですね。

(YMCAオベリン保育園 主任 賀澤順子)

♪子育てランド♪ 笑顔で健康に過ごそう!

2月5日は「ニ(2)コ(5)ニコの日」と読む語呂合わせから、社会を明るくする活動を行うボランティア団体の有志が「笑顔の日」と制定したそうです。

笑顔には心と体に良い影響があることが、科学的にも証明されています。笑うことでストレスが軽減され、幸福ホルモンが分泌されるため、心身の健康に役立つそうです。実際、笑顔を作ることで、脳が「幸せ」を感じ、免疫力を高めることも知られています。また、笑顔を交わすことで、周囲の人びととのコミュニケーションが円滑になり、心の健康にも良い影響を与えます。社会的つながりが強化されると、孤独感や不安感の軽減にもつながり、精神的な健康が保たれます。

私たちの健康維持には、規則正しい食事や適度な運動、質の高い睡眠が大切ですが、笑顔を意識的に増やすことも、心と体のリフレッシュに役立ちます。「ニコニコの日」をきっかけに、笑顔の力を再確認し、心も体も健康的な毎日を送りたいですね。

(YMCAオベリン保育園 主任 賀澤順子)

横浜 仲間とともに スキーキャンプ

12月26日から冬季スキーキャンプを志賀高原・富士山YMCAグループ・エコ・ヴィレッジにて実施し、170人の子どもたちが冬の自然を楽しんだ。YMCAのキャンプは、青少年が互いのいのちを尊重し、信頼し合うことを学び、精神、知性、身体の「全人的な成長の場」となるよう行われている。



キャンプでは、スキーや雪遊びを楽しんだほか、キャンプ生活を通して互いを尊重することや相手を思いやることなどを学ぶ機会となった。3月にもスキーキャンプや富士山YMCAキャンプが行われる。

絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」 浜田桂子氏(絵本作家・画家)を招いて講演会

2月11日に会員大会・ピースフォーラムを開催 湘南とつかYMCA・オンラインにて



横浜YMCAでは、2月11日(火)・休日午前10時から12時30分に、湘南とつかYMCAならびにオンラインにて「会員大会・ピースフォーラム」(主催 横浜YMCA会員事業委員会)を開催する。フォーラムの準備は会員事業委員会(古賀健一郎委員長)が中心となり進めている。

この会員大会・ピースフォーラムは、YMCA維持委員会、プログラム会員・その保護者、YMCAに関心のある方を対象として「平和」について共に考え学ぶ機会としている。今年、講演会・広島ピースキャンプ



▲講師 浜田桂子氏

の報告、維持会員をはじめとした横浜YMCAの報告が行われる。

講演会は浜田桂子氏(絵本作家・画家)を招き、「絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」をテーマとして行う。浜田氏は、中国・韓国・日本の絵本作家と平和絵本シリーズを企画し「へいわってどんなこと？」を3カ国で共同出版(日本は童心社)した。香港版は「2020 Hong Kong Book Prize」を受賞した。日本児童出版美術家連盟前理事長。国内外では子どもたちといのちと平和を考えるワークシヨップを行っている。著書には『てとてとて』『わらう』(以上福音館書店)、『ぼくのかわいくないもよう』(ポプラ社)など多数。

会員事業委員会では、平和の絵本作業を通して、国を超えた意見交換を積み重ね、各国の歴史を踏まえて実現した取り組みや経緯などを聞き、多様な視点から平和について共に学び、考え、平和の意味と大切さを問い直す機会としたいとしている。参加費は無料。申込みは2月3日(月)までにQRコードにてお申込みください。(詳細4面ご参照ください)

光州YMCAから長期派遣職員 張チャムセムさん1月6日から受入

横浜YMCAではアジアを中心とした各都市のYMCAと積極的な人事交流を行っている。このうち光州YMCAとは短期交流のほか、長期にわたる人事交流を行い、これまでに光州YMCAの6人のスタッフが横浜で研修を行った。2025年1月6日から張(ジャン)チャムセム氏が



▲張チャムセム氏

来日し、12月まで研修を行う。研修では相互交流促進のための業務遂行や横浜YMCAにおけるプログラム遂行、光州YMCAの事業強化と新規プログラム開発、日本の諸状況および日本語の学習を行う。張氏は「横浜YMCAの多様な活動を直接見て感じ、学んでいきたい。YMCAが誇りに誇りをつくり、世界を一つにする仕事・役割に貢献したい」と意気込みを語った。

なお横浜YMCAから光州YMCAにて長期研修を行っている佐藤泰乃スタッフは3月に帰国を予定している。

台北YMCAに人事交流派遣の 横浜YMCA奥山湧斗スタッフ帰浜

横浜YMCAでは、台北YMCAとの人事交流派遣として2024年9月20日から派遣していた奥山湧斗スタッフ(YMCA山手ムロセンター)が12月10日に帰国した。

台北・泰山スポーツセンターを中心に活動し、前半には成人のトレーニングクラスや幼

少の水泳、バスケットボールクラスで指導に当たったほか、バスケットボールの練習試合での審判やプログラム企画運営などを学んだ。10月29日には横浜YMCA健康教育秋季スタッフ研修にオンラインでつながり、奥山スタッフは台北YMCAから



▲台北YMCA泰山スポーツセンターのトレーニングクラスメンバーとともに(前列右から3人目)

FLASH NEWS

地域や社会の課題を考えようとシリーズで行っているグローバルセミナーは、1月24日(金)横浜中央YMCAにてグローバルセミナー「映画で学ぶ身近な社会課題」(主催 国際事業委員会)を開催した。ドキュメンタリー映画『ゴースト・フリード 知られざるシーフード産業の闇』を通して、東南アジアのシーフード産業における労働の課題や人身取引などについて、映画の監修にも関わった齋藤百合子氏(大東文化大学特任教授・横浜YMCA国際事業委員)を講師に迎え、食の安全と人権について学んだ。



横浜YMCAでは、昨年12月にタイ・バンコクYMCAとカンボジアYMCAにクリスマスカードを贈った。横浜YMCAにもバンコクYMCAバオセンターの子どもたちやスタッフが刺しゅうなどで手作りした色鮮やかなクリスマスカードが100通届き、各YMCAに掲示し、子どもたちからの感謝の言葉を支援者に届けた。

ワイズ コーナー 変化に富んだ活動と異世代交流 鎌倉ワイズメンズクラブ

鎌倉ワイズメンズクラブの例会は、月1回鎌倉YMCAを会場に行われていますが、今年度は4月に富士山YMCA、8月は歌舞伎鑑賞、11月は鎌倉歴史散歩と他のクラブの皆さんとともにYMCA外での活動も多く取り入れられました。また、8月、11月、12月には運営委員やボランティアリーダーとともに納涼会やバザー、クリスマス会を行い異世代交流も楽しみました。

2月8日(土)午後3時から「ヘルマンハーブチャリティーコンサート」(主催 ワイズメンズクラブ湘南・沖繩部鎌倉クラブ)を鎌倉市福祉センターで開催します。入場無料・自由席。会場にて横浜YMCA国際・地域協力募金のご案内をいたします。ご関心のある方は鎌倉YMCA(Tel 0467-24-7859)にお問合せください。(鎌倉ワイズメンズクラブ会長 板崎淑子)

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

横浜YMCAでは障がいのある子どもたちを対象にした運動の機会の提供や学習支援、キャンプなどの自然体験活動、ソーシャルスキルトレーニングなどのプログラムを長く実施してきました。これらのプログラムを支援するためのチャリティーランも四半世紀以上実施し、成長した青年向けの就労支援も展開しています。多様性を尊重し、違いを認め、共に生きる社会の実現に向けた取り組みは今も続

代に合わせて変化しながら展開しています。最近では「障がい児プログラム」という表現を「支援を必要とする子ども」のためのプログラム、「特別なニーズ」

2025年度から湘南とつかYMCAでは「特別なニーズのある子ども」の「きょうだい」を対象としたプログラムを始めます。日ごろから我慢をしがちな中にあるのは、この思いから、リラックスクスとした楽しい雰囲気の中で、同じ立場の仲間と出会い、思いっきり遊ぶ機会の提供と仲間との思いの共有、ピアサポートの機会を設ける取り組みです。YMCAでは初めての取り組みです。今まで長く関わってきた子どもたちの近くにいた子どもたち(きょうだい)へのまなざしを持った企画が生まれてきました。「横浜YMCA」私たちの使命が具現化されようとしている瞬間なのだと思っています。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

最近「Sibling」という単語に出会いました。最近、見るようになってきた性別に関係なく表現した「きょうだい」のことです。日本では障がいのある子どもが多いように使用されるケースが多いようです。

ひとかき sibling

総主事 佐竹 博

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー(第408回)

日時 2月21日(金)午前10時~正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ How We Live in the Heart of Europe, Czech Republic
 ゲスト Martin Vejvar さん(チェコ)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 ○チェコの伝統や文化を学びます。

■発達教育支援プログラム オンライン理解講座

日時 2月5日(水)午前10時~10時45分
 会場 オンライン(Zoom)または藤沢YMCA
 テーマ 「教えてもらっていないからできないよ」~こんなところが難しいです~
 対象 「相談する」ことができる大人になるために
 講師 田沼美穂スタッフ(特別支援教育士)
 参加費 無料
 申込み QRコードからお申し込みください。
 後援 藤沢市・横須賀市教育委員会・横須賀市社会福祉協議会

協力 横須賀基督教社会館・衣笠病院
 問合せ 横須賀YMCA Tel 046-854-5126

イベント

■会員大会-ピースフォーラム-絵本から学ぶ「へいわってどんなこと」

日時 2月11日(火・休日)午前10時~12時30分
 会場 湘南とつかYMCAまたはオンライン
 講師 浜田桂子氏(絵本作家・画家)
 参加費 無料
 申込み QRコードにてお申し込みください。
 問合せ 会員大会事務局 Tel 045-662-3721

■戦争をジブゴトにするとは~広島、長崎、沖縄、横須賀から問う~

日時 2月15日(土)午後1時30分~4時30分
 会場 横須賀市産業交流プラザ
 内容 ①沖縄、長崎、広島、横須賀からのユースによるパネリストからの報告
 ②グループディスカッション
 ③グラフィックレコーディングによる全体共有
 参加費 無料
 主催 横須賀YMCA 一般社団法人かたわら

■子どもたちの未来のためのコンサート

日時 2月16日(日)午後2時開演(1時30分開場)

会場 戸塚区民文化センターさくらプラザ
 出演者 ピアノ 青山瑠美子氏・飯田彰子氏
 ヴァイオリン 井上八世以氏
 クラリネット 高井洋子氏
 ソプラノ 中野亜維里氏
 入場料 前売り2,000円(湘南とつかYMCA・横浜中央YMCA受付)全席自由
 主催 湘南とつかYMCA運営委員会
 問合せ 事務局 湘南とつかYMCA
 ○収益の一部は横浜YMCA子ども支援(BAPY)基金に用いられます。

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 2月13日(木)午前10時30分~
 会場 湘南とつかYMCA4階404教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

子育て支援

■プレママDay

日時 2月25日(火)午前10時~11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム

問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 2月14日(金)午前10時~11時・26日(水)午後1時30分~2時30分
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

○介護福祉科
 日時 2月8日(土)・22日(土) 午前10時~/午後2時~
 内容 入試・学校説明会
 ○オンライン学校説明会(社会福祉科・精神保健福祉科)
 日時 2月8日(土)・22日(土) 午後1時30分~午後3時/27日(木)午後6時~7時
 申込み Tel 046-223-1441
 詳細はQRコードをご覧ください。
 ■横浜YMCAスポーツ専門学校
 日時 2月1日(土)、8日(土)、22日(土) 午前10時30分~12時/午後2時~3時30分
 内容 学校・入試説明会
 申込み Tel 045(864)4990
 詳細はQRコードをご覧ください。

日本のお正月を楽しんだみどりクラブ

1月6日に、第24回みどりクラブの「日本のお正月を楽しもう」が十日市場地域ケアプラザにて行われました。参加者は、杵とうすを用いて餅を作ることは知っていましたが、餅つき機を用いて、もち米から餅を作る工程ははじめて見て、関心深く楽しみました。きなこ餅と磯部餅を作ったほか、黒豆やなます、かまぼこ、栗きんとんなどの伝統的なおせち料理を食しながら、互いに近況の報告や手作りの福笑いにもチャレンジし、このような時が過ごせることに感謝の思いを共にしました。



すべての子どもに公平な機会を子ども支援(BAPY)基金

横浜YMCA子ども支援(BAPY)基金は、横浜YMCAの諸活動に、経済的な理由等により参加することができない子どもたち(青少年)に向けて、費用の一部または全額を援助しています。BAPYとは"Be A Partner of the Youth"の頭文字で「子どもたちのパートナーになる」という意味が込められています。この基金は、寄附により成り立っており、多くの方々のご協力により支えられています。
 基金の申請、募金方法についてはQRコードまたはお近くのYMCAにお問合せください。
 春季プログラム基金申請受付は2月7日(金)まで。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介いたします。



▲キャンプリダー養成講習会(1970年代)

My Y Story

181 **ワークサポートセンターアンジュでのボランティア活動は私の居場所に**

横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ
ボランティア
藤堂 夏希



私は横浜YMCAワークサポートセンターアンジュで週に1回、パンの袋詰めボランティアをしています。高校3年生の時に戸塚区社会福祉協議会のボランティアアセンタールで紹介してもらったことがきっかけで開始し、2025年1月で丸3年が経ちました。

アンジュのことは全く知らない状態から始めたのですが、コサージュ作りをした際に、私が小中学校の卒業式でもらったコサージュがアンジュのものだったことが分かり、気づかないところでアンジュとつながりがあったことを知りました。

「パンが好きだから」という単純な理由で始めたボランティアですが、3年も続けることができています。アンジュが単にボランティアの場所というだけでなく、私にとって大切な居場所のひとつになっているからだと思います。ボランティアを始めの前は、就労支援の施設はどのような場所でのような方が働いているのかイメージが湧かず、不安や緊張も少しありました。しかし、アンジュには明るくフレンドリーな方が多く、エンターテイメントやペットの話などをして盛り上がったことや部

活の試合が近づいて緊張している時は、励ましの言葉をかけてもらったり、いつも元気をもらっています。また、長く活動が続けるにつれて、始めたばかりの頃は話す機会が少なかった利用者さんとも、話をする機会が増えてうれしく感じています。

同時に、普段は明るく元気な利用者さんでも体や心の調子を調整することが難しく、毎日出勤することに苦労している姿も見えました。それでも利用者さんたちは、心身と向き合いながら調子を整え、自分のペースで仕事をしていて心から尊敬しています。そして、仕事に前向きになれない人がいたら話を聞くなどして、ほんの少しでも利用者さんたちの役に立ちたいと思っています。

アンジュでボランティアができるのも、大学卒業までなので残り1年ほどになってしまいました。これから進路の関係で忙しい時期になります。が、利用者さんやスタッフの方々の関わりを楽しみに同じペースで続けていこうと思っています。



▲利用者の方々と出来上がったパンをさます作業を行う(左前)